

私の将来の夢は、小学校の先生になることだ。

小学校の先生は、本当に凄い。子供たちの人生を変える力がある。私は、自分に自信のない子供が自信をもつき、かけを作れる先生になりたい。

私が、小学校の先生になりたいと思うようになったとき、かけは、母の存在だ。母は、小学校の先生だ。毎日遅くまで仕事をし、土日でも学校に行くことなんてよくあることだ。し

かし、母は、学校の話をするとき、とても生き生きとした表情になる。

母は、とても熱心な先生だ。日記のコメントはいつもびっしり。一人一人じっくり読んで心を込めて書いている。忙しいのにもかかわらず、だ。私は、それを見ていつも不思議だった。もう少し手を抜けばもっと楽になれるのに、どうしてそんなにするのだろう。そこで母に聞いてみると、母は、コメントを読んで子供たちが嬉しそうに

ているのを見ると嬉しい。それを見ると、
も。と頑張るう。て思えてくる。
と言っていた。

ある時、母が丸つけをしていて、
「漢字テストの平均九十八点。」
と、とても喜んでいました。このとき母の担任は
六年生で、テストが簡単という訳でも、子供
たちがみんな優秀という訳でもない。勉強が
苦手な子一人一人と向き合い続けた結果だ。
そして、このことをきっかけに、勉強が苦手

な子供たちにある変化が起きたそうだ。勉強
が得意にな。ただけでなく、いろいろなこと
に責極的にチャレンジするようになったのだ。
一つの「出来た」という自信が、あらゆるこ
とを良い方向に進めていったのだろう。

私は、母のように熱心で、子供たちの背中
を押してあげられるような先生になりたい。
そのために、勉強して知識をつけるのはもち
ろん、周りを見て、気配りのできる人になり
たい。いっか、私が担任をした子供たちが、

明
る
い
未
来
を
歩
ん
で
い
け
る
よ
う
に
。